

## 令和 7 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	4	学校名	茨城県立日立第二高等学校				課程	全日制		学校長名	長山 祐司					
教頭名	渡邊 俊之									事務室長名	大川 由紀					
教職員数	教諭	28	養護教諭	1	常勤講師	8	非常勤講師	7 含 ALT	実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	54
生徒数	小学科	1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	0	112	0	126	0	124	0	0	0	362	11				

## 2 目指す学校像

創立以来、98 年に及ぶ女子教育の歴史と伝統の上に立ち、変化してゆく現代社会にあって、校章の野ばらのごとく「清らにつつましく、踏まれても、刈られても、たくましく、美しく」生きていく意欲と感性豊かな人間の育成に努め、生徒一人ひとりの知的・道徳的・芸術的・身体的な能力を最大限に伸ばし、調和のとれた人間の形成を図る。

## 3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 女子教育という建学の精神のもと、変化する社会の中で「清らにつつましく、踏まれても、刈られても、たくましく、美しく」生きていく意欲と感性豊かなリーダーシップのある人財</li> <li>② 生涯の力となる学びを通して、知的・道徳的・芸術的・身体的な能力を最大限に伸ばした調和のとれた、共生社会で自立できる人財</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程に基づき、基礎学力の増進と進路意識の高揚に努め、生徒の適性、能力、希望に応じた進路希望の実現</li> <li>② 体系的なキャリア教育と体験的な国際理解教育の活動を通じて、グローバルな視野をもってコミュニティーを俯瞰し、看護・医療分野を始め多方面で支えることができる人間性の涵養の実現</li> </ul>
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 基本的な生活習慣を確立し、学習活動、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに粘り強く取り組み、自己実現を目指す生徒</li> <li>② 夢を生活の原動力、将来の目標とし、それに向かって「温順にしとやかに お互いに心をあわせ 明るく快活に まじめに勤労へ」日々努力する生徒</li> </ul>

#### 4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒の主体性を引き出すような授業改善のさらなる工夫が必要である。入学時の学力差が大きい。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。ICT活用を促進し、学力に応じた指導方法の工夫に努める。
生徒指導	温和で規範意識を持っている生徒がほとんどだが、基本的な生活習慣が身に付いていない生徒、ルール・マナーの欠如した生徒、人間関係を結ぶのが不得手な生徒が相当数存在する。	基本的な生活習慣の確立を礎に、規範意識の高揚、良好な人間関係を作るライフスキルの獲得を目指す。
進路指導	国公立・私立大学への進学希望者が多数いると同時に、短大・専門学校への進学希望者、また就職希望者もおり進路希望が多岐にわたる。各学年団が中心となり、細やかで組織的な指導を実施している。進学者においては、看護・医療系の学科への志願者の増加、総合型選抜・学校推薦型選抜での合格者増加の傾向がみられる。	キャリア教育をより充実させ、生徒一人ひとりの職業観・勤労観の育成を図る。進路実現に向けて、個に応じた学力向上の指導を継続させていく。
特別活動	社会状況の変化を背景に、社会体験の不足や集団のために働く意欲の低下などが顕著になっており、好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分な状況が見られる。	生徒会活動やHR活動、部活動、ボランティア活動を一層活性化させ、自主的・主体的態度の育成を図る必要がある。キャリア・パスポートの活用により、生徒の今後の人生をつくる「道しるべ」となるようにする。学校行事を通して、直面する課題に適切に対応できる能力を育成する「シティズンシップ教育」の推進に、積極的に取り組む。
保健	健康管理ができていない生徒がいる。学年や担任の丁寧な指導と家庭の協力が必要である。 また、学校での人間関係や家庭環境に起因する心身の不調により、登校が難しくなる生徒が増えている。それに伴い、保健室に来室する生徒、スクールカウンセラーとの面談を希望する生徒も多い。 清掃は概ね行き届いているが、生徒数の減少に伴い、かつてほど徹底した清掃をするのは難しくなっている。	自己の健康について関心を持つように、保健だよりの活用や教科との連携を図る。 保健室や学年・担任相互の緊密な連携により、生徒の現状を把握する。また、スクールカウンセラーとの連携を深めるとともに、予防啓発的な活動も積極的にやっていく。 清掃の徹底を図り、学習環境の整備に生徒が自ら積極的に取り組む姿勢を育てる。
渉外	保護者のPTA行事への参加率はあまり高くない。	保護者がよりPTA行事に興味を持って参加するよう、内容と周知の工夫をする。
情報	生徒全員のタブレット使用は日常的なものになっているが、学習動画の活用については低調である。	適切な場面でタブレットを効果的に活用する。生徒のICTリテラシーを育む。
働き方改革	恒常的に時間外勤務が長くなっている教職員が少なからずおり、心身の疲労蓄積が心配される。	業務の平準化とICTを活用した効率化に加え、教職員一人一人の意識改革が必要である。

#### 5 中期的目標

- 1 個に応じた学力増進と進路指導の充実を図り、生徒の適性、能力、希望に応じた進路希望の実現に努める。
- 2 基本的な生活習慣の確立を礎とし、主体的な態度の育成を図り、意欲的に学習活動に取り組み、自律的にして責任ある生活態度の育成に努める。
- 3 HR活動、生徒会、各種委員会や部活動などの特別活動を総合的に振興し、自主的で活気のある校風の下、心豊かな人間の育成を図る。
- 4 国際社会を理解する機会を増やし、学校の教育活動全体を通じて国際理解教育を推進して国際社会で活躍できる人間の育成を目指す。
- 5 活力と魅力ある学校づくりのために、まず教職員が活力にあふれ健康であるよう、働き方改革と職場の環境向上に努める。

## 6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 中卒者数の大幅減に対応するための戦術を練り、更なる戦略的広報活動を展開する。	① 「本校を知ってもらって、来てもらって、見てもらって、体験してもらって、受けてもらって、入ってもらって」という一連の流れで、年間を通じての広報活動を実践する。 ② 「コミュニティ・スクール」としての強みを最大限に生かし、地域と連携を深めることで、本校の教育方針を理解してもらい、地域とともにある学校と認知されることで受検生の増加につなげる。
2 個に応じた教育を推進し、確かな学力の定着に資する授業改善に努め、進路希望の実現に導く。	③ ICT を効果的に活用して授業改善に努め、個別最適化された「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。 ④ 公開授業や相互授業参観の実施など、学習指導の質的向上を目指した校内研修体制の充実を図る。 ⑤ 学び直しや基礎学力の定着を図り、自ら意欲的に学力向上を目指す生徒の育成に努める。 ⑥ 生徒と向き合う時間の確保に努め、適切な助言により生徒の学習意欲を向上、維持させる。 ⑦ 「チャレンジ・プロジェクト事業」を通して、生徒に寄り添った体験学習を実践し、進路意識の高揚に努める。 ⑧ 看護・医療コースの特徴あるカリキュラムを十分に活用し、看護・医療を志す生徒の進路希望実現を援助する。 ※数値目標（生徒の授業満足度、肯定的評価 80%以上） ※数値目標（進路希望決定率 100%） ※数値目標（1日看護体験参加者 30名以上） ※数値目標（インターンシップ参加者 25名以上）
3 基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚を図り、自己の確立を目指す。	⑨ しとやかな身だしなみに基づき、温順に快活な生活習慣を身に付けさせる。 ⑩ 清らかに美しく生活するために、全員清掃による美化活動に努める。 ⑪ 集団の一員としての自覚を高め、他者と協働しながら課題に挑戦して解決することができる力の育成に努める。
4 特別活動の活性化を図り、豊かな人間性を培う。	⑫ 自主的・主体的な部活動や生徒会活動を奨励し、キャリアパスポートを活用して心身共に調和のとれた生徒の育成に努める。 ⑬ 学校行事をとおして、直面する課題に適切に対応できる能力を育成する「シティズンシップ教育」の推進に、積極的に取り組む。
5 国際理解教育を推進し、国際人としての素養の涵養に努める。	⑭ 英語によるコミュニケーションの機会を積極的に創出し、英語を使いながら学ぶ体験的な学習方法の確立を目指す。 ⑮ 英語を学ぶ・英語で学ぶ・ともに学ぶ姿勢で、「使うための英語」を身につけさせる。 ⑯ ALT や社会人講師との英会話を通して実践的コミュニケーション力育成と異文化理解の促進に努める。 ※数値目標（年間英検受検者数：2級 10名以上、準2級 50名以上）
6 活力と魅力ある学校づくりの推進に努める。	⑰ 県立学校改革基本プランに沿った継続的検討を進める。 ⑱ 働き方改革を促進するため、ICT を活用した効率化や部活動の精選等、教職員の業務の見直しを推進する。 ⑲ 「県立日立第二高等学校の部活動に係る活動方針」に従い、安全に、短時間で効率的な部活動を実施する。